衛兵の交代

Kavli IPMU 機構長
村山 斉 むらやま・ひとし

2007年10月1日にIPMUが発足したときは、研究者は一人もいませんでした。その半月後、最初に着任した研究者が初代事務部門長、中村健蔵さんです。彼はこの４月、この仕事から退きました。

中村さんは目覚ましい仕事ぶりでした。WPIプログラムの要求事項を胸に刻み、分野を融合する研究環境、国際的なメンバーシップ、研究者への最小限の雑用、という組織の実現に取り組みました。このどれ一つをとっても簡単なことではありません。すぐさまバイリンガルな職員を集め、外国人研究者がすぐに日本に落ち着き仕事を始められるようなサポート体制を築きました。大学本部と交渉を重ね、柔軟な雇用体制を作りました。実際、様々なシステム上の障害を乗り越える彼の努力なくしては、私自身当時の小宮山総長から辞令を戴くこともなく、今のメンバーのほとんどは今ここにいなかったことでしょう。しかも私の怪しい日本語を事務のために翻訳までしてくれました。

彼はそもそもニュートリノ物理学で有名な実験家でした。世界で初めての長基線ニュートリノ振動実験K2Kが実現するために、大きな働きをしています。KEKからニュートリノのビームを250km離れたスーパーカミオカンデへ打ち込んだのです。またParticle Data Groupでの長年の貢献は、彼のサービス精神を良く顕しています。深いサイエンスの知見、サービス精神、政治的技量、慎重なマネジメント、そして献身的な態度、こうした組み合わせを持つ人は稀にしか見当たりません。私達は皆彼に感謝すべき点がたくさんあります。

実は彼は私達から離れてしまったのではありません。毎日出勤し、このKavli IPMU Newsの編集を続けてくれています。そして色々判断に迷ったときは、アドバイスをくれる賢人です。

ところで彼の後継者が気になるでしょう。大変幸運なことに、こうした稀な才能を持つ人がもう一人見つかりました。春山富義さんです。彼もKEKからの異動で、低温技術の著名な研究者です。暗黒物質を探索するXMASSや、ブラックホールの合体から来る重力波を探すKAGRAなど、基礎物理学の実験に大事な貢献をしてきました。またKEKの素粒子原子核研究所の副所長や日本の低温工学会会長を務める等、マネジメントの経験も豊富です。しかも何とも楽しい人です！

こうした素晴らしい人たちに支えられているのは、大変ありがたいことです。彼らのお蔭で、安心して最高の環境で研究できるのです。

この中村さんが編集した今号のKavli IPMU Newsも楽しい読み物です。高名なsymplectic幾何学の数学者深谷賢治氏が、我が斎藤恭司主任研究員と数学と物理の関係について対談しています。また渡利泰山氏が数学者の同僚、戸田幸伸氏を巻き込んだフレーバー物理の研究について書いています。皆さんも楽しんでお読み下さい。そして中村さん、ありがとうございます！

中村前事務部門長

春山事務部門長